

「笑顔の演技」ができた

城端むぎや祭の呼び物の一つ「じゃんとこいむぎや」には2000年から出場しており、大賞獲得はこれが3度目となる。「会場の温かい雰囲気のおかげで、私たちがモットーにしている「笑顔の演技」ができた」と喜ぶ。

今回は星稜国際高校富山学習センター（富山市）との合同チームで臨んだ。披露した「韋駄天ワンダーランド」は、シンガー・ソングライターの高原兒さんに作曲してもらったオリジナル曲を使用。こきりこ節にロックや

人 けさの



じゃんとこいむぎやで大賞に選ばれた
韋駄天HANA-BIリーダー

いしごろ ともなり
石黒 智也さん

ロカビリーを組み合わせた曲に合わせ、小学1年から40代後半までのメンバー30人が息びつたりの躍動感あふれる踊りを繰り広げた。

よさこいチームを結成したのは1999年。以来、県内外のさまざまな大会や催しで演舞を披露している。「少しずつみんなで振りを身に付け、一つの作品を作り上げるところに魅力がある」と言う。

10月には仙台市で行われる「みちのくYOSAKOIまつり」に参加する。9年前、他チームの演出を目の当たりにし、強烈に刺激を受けた思い出の祭りだ。「東北を盛り上げたいという願いを込めて、元気に踊りたい」と意気込む。

妻と1男2女の5人家族。「2歳の次女はよさこいのヒアオを見ると踊り出します。やっぱり親子ですね」と目を細める。立山町寺田ことぶき町。40歳。

（立山・上市支局長 稲垣重則）